

# 「友達と一緒に仲良く活動できる子ども」をめざして

石 脇 紀美子

## 1 はじめに

ダウン症児は、一般に環境の変化に順応できなかったり、固執性が強いいため、協調性に欠けるといわれるが、M男も少しの環境の変化に対して強い抵抗を示したり、場に応じた人とのやりとりができなかったり、はじめてのことや、特に、少しでも自信のないことには消極的な態度を示す子どもである。その上、クラスの友だちと一緒に遊んだり、協力し合うことがなかなかスムーズにできにくい面も合わせて持っている。

「豊かな心を持ち、たくましく行動する子」のテーマを、身辺自立がほぼ確立し、豊かな表現力が備わっているM男に視点をあてた時、「みんなと一緒に仲良く活動できる子ども」をめざしていかねばならないと考え、M男の得意とするおやつ作りを通して実践を試みた。

## 2 M男の実態

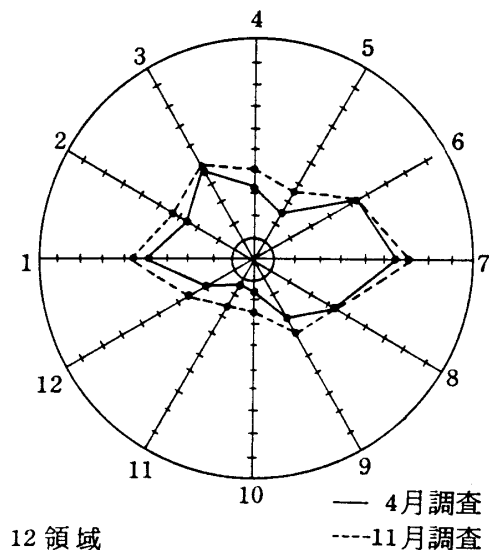
### <生育歴の概要>

- M・U児      ○ 3年男子(51.3.7生)      ○ ダウン症候群
- 家族構成：両親、姉、妹(59.5生)      ○ 通園施設に8ヶ月、R幼稚園に10ヶ月通う

### <到達度評価表による実態>

右のグラフは、S48年 鳥大附属小学校特殊学級で作成された、児童の全体的な評価試案(360項目による)で、M男の実態を評価して円形プロフィールに示したものである。

このグラフから、M男が他の知的な面よりも、判断力や対人関係、態度面などの領域の得点率が低く、集団生活に参加していく上で大切な問題があることがわかる。



1	生活習慣	7	社会生活
2	言語能力	8	健康生活
3	数量能力	9	判断力
4	造形能力	10	対人関係
5	音楽能力	11	技能
6	運動能力	12	態度

## 3 指導の重点と方法

M男を学級の友達の中で生かし、彼がすすんでいるいろいろな事に取り組もうとする力を養うために、M男の発達段階や性格から考えて次の三つの点に重点を置いて指導するようにした。

1. M男に、「この事なら」と自信を持って取り組めることを作る。
2. 「(先生に)～してください。」「(友達に)～してあげて。」などの教師の繰り返しの指示で、どんな時に何をすれば先生や友達に喜ばれるか少しずつわからせる。
3. やり方やする事がわかって、先生や友達に何かをしてあげて、喜ばれたり誉められたりする事の喜びを多く味わわせ、今度もしてあげようという気持ちを持たせる。

指導にあたっては、M男に興味・関心のある題材を繰り返し学習させ、やり方がわかったり、技能がだんだん向上していく中で、自信を持たせるような組み立てを工夫していく。そして、その自信を背景にしながら、具体的な場面での直接的な指導の繰り返しから、だんだんと指示や援助を少なくして、自ら友達とかかわっていくような態度を育てる指導をしていきたいと考える。

58年度「生活単元指導計画」とそれに含まれる「おやつ作り」

月	単 元 名	おやつ作り
4	・みんななかよし	ちまき <sup>※</sup>
5		フルーチェ
6	・遠足に行こう	
7	・七夕まつり ・水遊び宿泊	フルーツポンチ <sup>※</sup>
8		
9	・運動会	ミックスジュース
10	・すいはん遠足	(カレーライス)
11	・学習発表会	おだんご <sup>※</sup>
12	・クリスマス ・もうすぐお正月	クッキー
1		
2	・ゲーム大会	ぜんざい
3	・ひなまつり ・おわかれ会	ケーキ

#### 4 おやつ作りの実践から

おやつ作りは、M男のみならず学級のどの子どもが大好きな学習で、能力の違う子どもでもみんなと一緒に参加できる題材である。また、一つのをみんなが作ったり、お手伝いをしあう場を設けやすいので、友達同士の関わりを持たせるのに格好の題材でもある。また、M男は家庭でもよく

調理の手伝いをしたり、おやつを配ったりしているので、エプロンをつけてのおやつ作りだと聞くと、とても意欲的に学習に臨んでくる。

そこで、右の図に示すように、生活単元学習の中におかし作りを年8題材くみ入れて、同じようなパターンで繰り返しの学習を計画し、M男が学級の友達や教師との関わりをより深めていく指導を試みることにした。

1学期から今まで、6題材(13回)のおやつ作りを行ったが、その中でもだんごを作るという共通点のある三つの題材の学習の記録から、M男の変容ぶりを述べてみたい。

① 5月 ちまき作り (3回実施の1回目)……M男の様子の観察を中心にした

学 習 の 流 れ	M男に対する働きかけ	M 男 の 様 子
1 身仕度をする。	1・エプロンを持ってきて着ましよう。	1・ロッカーから取り出して身につける。後ろのひも結びをするように要求する。

学習の流れ	M男に対する働きかけ	M男の様子
2 ボールの中でだんごの粉と水をこねる。	2 ・先生と一緒にしようか。	2・手が汚れるのを嫌がってしようとしなない。 ・「ウン」といってすぐに取りかかる。おもしろくなったのかしばらくこねていた。 ・「イヤ」
3 丸めてだんごを作る。	・T君のもしあげてください。	3・教師に「ショーショー」と何回も言ってくる。とうとう袖を引っぱって自分のとなりの席に連れていき、教師を見ながら一緒に作る。
4 笹の葉にくるむ。	4 ・先生のもしてね。 ・T君のもしてあげようか。	4・教師をまねてくるむことができた。 ・「ウン」といって手伝う。 ・「イヤ」といって、自分のちまきを皿に入れて得意そうに持ち歩く。
5 ゆでる。		5・鍋の横で静かに待っていた。
6 ちまきを配る。	6・みんなにお皿を配ってあげましょう。	6・一枚ずつ配ったが、H君の分だけわざと配らない。



② 7月 フルーツポンチ作り (3回実施の2回目)……特定な友達への援助を指示する。

学習の流れ	M男に対する働きかけ	M男の様子
1 身仕度をする。	1 ・T君のエプロンも取ってきてね。	1・何の指示がなくても自分からエプロンを取り出して身につける。 ・「ハイ」T男とR子の分を取ってくる。
2 ボールの中でだんごの粉と水をこねる。	2 ・T君のも手伝ってあげてください。 ・M君すごいね。おரிこうさんだね。	2・材料の入っているボールを持つと自分からさっさとこねだした。 ・「ハイ」と言ってT男の方へ行ってこねてあげる。 ・「ウン」

学習の流れ	M男に対する働きかけ	M男の様子
3 だんごを丸める。	3	3・調子ずき、みんなに皿を配る。
4 ゆでる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・またT君のを手伝ってあげてね。</li> <li>・M君、お手伝いありがとう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハイ」といって、自分のが終わった後で手伝う。</li> </ul>
5 フルーツを混ぜる。	4・H君のももってきてください。	4・知らん顔で自分のだけを持ってくる。(少し乱暴なH男をいつも嫌っている)

③ 11月 おだんご作り (2回実施の1回目)……みんなへのお手伝いの指示をする。

学習の流れ	M男に対する働きかけ	M男の様子
1 身仕度をする。		1・自分でエプロンを取り出して身につけ、ひも結びを要求。T男とR子のひもを結んであげようとする。
2 こねただんごの粉を丸める。	2・早くできた人は、友達のを手伝ってあげましょう。	2・「ハーイ」 R子の分を半分とって丸める。丸めただんごは自分の分としてお皿にのせる。(R子に返すように言うが「イヤ」といって返さない。)
3 くしに4個ずつさす。	3・くしを3本ずつ配ってください。	3・「イヤ」と言って動こうとしない。(R子のだんごのことで気分をそこなった。)
4 ゆでる。	4・先生の分も鍋まで持ってきてください。	4・「ハイ」 さらに、T男の分まで持ってきて、鍋に入れる。
5 きな粉とあん粉をつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとう。とってもうれしいなあ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得意そうな顔とポーズをとる。</li> </ul>
	5・先生と一緒に、みんなにもつけてあげようか。	5・「ウン」といってとてもきまりよくお手伝いできた。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとう。とても助かったよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハイ」といって、とても得意そうだった。</li> </ul>



## 5 おやつ作りの考察

援助や指示によるM男の変容ぶりを見ていくと、友達への援助の仕方を具体的に指示したこと、教師が大きな身ぶりで喜んだり誉めたりしたこと、繰り返し学習のために、することに見通しが持てだしたことなどによって、始めは自信がなくて友達への協力に抵抗を示すことのあったM男も、7月段階では、特定の友達へなら手助けができるようになってきた。そして、だんごをこねたり、同じ大きさで丸めたりする技能が少しずつ向上してきたために、担任以外の先生に誉められて自信を持ったり、教師のかわりに友達を手伝ってあげるようにもなってきた。さらに、11月段階では、少しずつではあるが学級全体のお手伝いができたり、言われなくても自分から進んでお手伝いをするような場面も見られだして、人との関わりが少しずつ形成されつつある。

## 6 まとめと今後の課題

新学期から現在までに、6題材のおやつ作りを経験してきた。このことについては既に述べたように、回を重ねるにつれて、

準備
----

 → 

作る作業
------

 → 

食べる
-----

 → 

後片付け
------

 という一定のパターンにも慣れ、M男の動きも活発になり、友達や先生との関わりも持てだした。また、することの見通しも少しずつわかって、学習にも積極性がでてきたように思える。

これらのことは、学習時間だけでなく、次にも示すように給食や掃除、遊びの時間などの生活場面でも少しずつ見られるようになっている。

- ㉞ 宿泊学習で、T男のお皿を持ってきてあげたり、布団の出し入れを手伝ってあげていた。
- ㉟ 何の指示がなくてもR子のおよつのはづけをする。
- ㊱ T男の雑巾を取ってきて、しぼって渡す。M男がホーキ、H男がちり取りを持って掃除をする。
- ㊲ K子が手から血を出していると、教師に告げたあとすぐにティッシュを持ってきた。

この事は、11月に再調査した到達度評価（P23のグラフ参照）にも少しではあるが、広がりとしてとらえることができる。しかし、一方では、ノートを配る時にわざとH男の分だけ残したり、教師がいないところでT男をいじめていたり、運動会で他学部の人たちと手をつながなかったり、などの悪い記録もまだ残っている。態度的なものは、生育歴、家庭環境にも大きく左右されたり、クラス編成にも、また、発達段階にも大いに関わりのある事であり、一朝一夕に好転するものではないが、楽しい生活や学習を経験させる中で、彼の良さを集団の中で生かしていくように配慮しながら、彼の協調性を少しずつ育てていきたいと考えている。